

今週のメニュー

■トピックス

◇2016年 子どもとためす環境まつり
—中央区中央小学校で開催、8年連続で参加—

■随想

◇レソト王国旅行記（9）—大停電—

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

■編集後記

■トピックス

◇2016年 子どもとためす環境まつり
—中央区中央小学校で開催、8年連続で参加—

9月24日(土)に、中央区環境保全ネットワーク主催、中央区・中央区教育委員会共催、環境省関東地方環境事務所、東京都環境局、東京商工会議所中央支部、社会福祉法人中央区社会福祉協議会後援、40の企業・団体協賛、中央小学校PTA、築地警察署、東京カレッジ・オブ・カイロプラクティック協力、中央区立の小学校8校が参加し、「子どもとためす環境まつり」が、中央区立中央小学校で開催されました。塩ビ工業・環境協会（VEC）は、8年連続で参加・出展しました。



開会の挨拶

「子どもとためす環境まつり」は、中央区環境保全ネットワークが子どもたちや地域の方々に環境問題についてより理解を深めてもらうことを目指し、次世代へ向けた体験学習型の活動を柱に据えて行っているイベントで、今年で13回目となります。当協会では「NPO法人持続可能な社会を作る元気ネット」と共同で参加したことを契機に、この活動に共鳴し、環境学習の応援をしています。

VECブースでは、いろいろなプラスチックがその特性に応じた様々な場面に使用され、暮らしに役立っていること、その中でも塩ビが省資源、長寿命な素材でマテリアルリサイクル性などの環境性能に優れていることを理解していただくため、製品を展示、紹介しました。また、今年は硬質塩ビを使って海の生き物たちのセットシートを作製、ジンベイザメ、クマノミなどをその場で組み立てていただく企画で、子供だけでなく大人にも楽しんで貰い、同時に塩ビの印刷性の良さなど、実際に触ることで硬質塩ビの特長を理解していただきました。



VECブース

塩ビの特長を説明する展示品のうち子どもたちには食品サンプル、消しゴムなどが人気でしたが、一緒に参加していただいた保護者の方々には、省エネに貢献している塩ビ製樹脂窓や様々な用途で塩ビ製品が使用されていることの説明に興味を持っていただきました。参加された家族のみなさんは塩ビが省資源で、リサイクル性にも優れているとの説明を熱心に聞いて頂き、環境意識の高さを感じました。



塩ビ製『海の生き物』作り

当日は生憎の天気にもかかわらず、矢田区長をはじめ、非常に多くの地元の方々、小学生が参加され、総勢 180 名近くの方々に触れていただくことができました。この会の運用・推進に欠かせなくなっているサーモンプロジェクトの子どもたちの中にはこのプロジェクトがスタートした年に生まれた子どもたちも多く参加して活動してくれたとのことで、プロジェクトが着実に根付いているのを感じました。

ムゲンシステム(株)のみなさんによるミツロウを使ったキャンドルづくりなど、各ブースの色々な工作・体験学習に参加された方々は有意義な時間を過ごされたことと思います。また、毎年 VEC ブースに必ず来ていただいている子どもたちの多さに驚きました。

お世話をされた実行委員会の方々の努力で今年も無事に終わることが出来ました。感謝致しますと共に、今後ともこの活動を応援していきたいと思っています。

■ 随想

◇レソト王国旅行記（9）－大停電－

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

レソト王国に到着した日、到着時は曇りでしたが、昼過ぎからポツポツと雨が降り始め、そのうちに雷も鳴り出しました。この時は首都のマセルに居たので何の影響もなく、ちょっと荒れた天気だなあと思っているだけでした。ところが、レンタカーを運転し、ハイランドまで来ると、なんだか暗い。夕方、ホテルについてみると、フロントは真っ暗。フロントデスクの上ではロウソクが点されています。

これまでも、電力事情が悪く、日中は事務所や企業、工場に電力を割り振るため、夜にならないと電気が使えない、或は、電気そのものが来ていないため、夜、ある一定時間だけ自家発電により電気が供給される宿に泊まったことがあります。

今回もそんなことだろうと、ロウソクの光でチェックインを済ませ、部屋に入りました。もちろん、部屋の中の照明もロウソク 1 本。部屋の壁にはドイツ製の大型液晶テレビ、照明装置を確認すると LED 電球が使われており、立派な冷蔵庫もあります。とても電力不足の国には見えません。

窓の外を見ると、大きな湖が。

そういえば、このホテルのそばに、南アフリカ共和国の援助で作られた、レソト王国で 2 番目に大きなダムがあったはず。発電量はこのダムだけでレソト王国全ての電力を賄えるはず。レソト王国の重要な外貨収入源は、南アフリカ共和国への電力販売です。そんな国が、停電???

これは2010年までのお話。

現在は、これまで電気が通じていなかった田舎にも電気を供給するようになったところ、急速に電化が進み、どの家でもテレビをはじめとする家電製品を買い揃えたため、電力不足になってしまい、2011年には、年間で24,700万kWhもの電気を輸入しなくてはならない事態になっているそうです。

ボイラーは電気を使っていないようで、蛇口からはちゃんと熱いお湯が出ますが、部屋も廊下も真っ暗。廊下には転々とロウソクが置かれています。

夕食の準備はできるのだろうか、レストランに行ってみると、全く問題なし。プロパンガスを使っているの、料理には何の支障もないとか。テーブルの上にもロウソクが置かれ、なかなかロマンチックな夕食の始まりです。



この停電、ホテルがあるエリアだけだと思っていたのですが、首都マセルを除く、レソト王国全域で発生していました。9月～10月、レソト王国は春を迎えますが、この時期に雨が降ると土砂降りに。私が到着した日も、場所によっては雷を伴う、相当な雨が降ったようです。この、落雷と大雨が数カ所の変電所や送電施設にダメージを与えたことが原因で、大規模停電が発生したようです。

ほぼ全土が山岳地帯なので、トラブルが発生しても、簡単に修理スタッフを派遣したり、資材を運び込んだりすることができないため、復旧まで時間がかかるという事情もあるようです。日本だと大騒ぎになりそうですが、こちらの人にとっては「ああ、また停電か」ということだそうで、誰も騒いでいません。

レソト人だけではありませんが、こちらの人には夜目が効くので、暗くても日本人と比べると遥かによくものが見えるということもあるかもしれません。

チェックインの際、私には暗くて、文字が読める状態ではありませんでしたが、ホテルのスタッフは予約確認書とパスポートを見ながら、スラスラ書類に必要事項を書き込んでいます。最後に、書類にサインをしてねと渡されましたが、どこにサインをすればいいのかわからず、ほとんど見えませんでした。書類が読めないの、いつも持ち歩いている懐中電灯で書類を照らしたら、逆に明るすぎるといわれてしまいました (^_^)

ホテルのスタッフ、当然、全員が黒人。制服も黒いため、ロウソクの光が届くところにいてくれればいいのですが、そこから外れた所にいると、全く分かりません。誰もいないと思って廊下を歩いていて、いきなり「おやすみなさい。よい夜を」などと声をかけられると、本当に驚きます。

翌日の夕方、電力供給は回復しました。昨夜、ロウソクの明かりの下で食事をしたレストラン、明るい照明の下では全く雰囲気が違って、別の場所のようでした。真っ暗な中、ロウソクの光で過ごすのも、なかなか良いものです。

(続く)

次回は、(10) -学校- です。

⇒ [バックナンバー](#)

■ 編集後記

何の根拠もなく勝手に「さすがにそれは無いでしょう」とたかをくくっていて申し訳ありませんでした。3年連続で日本人がノーベル賞を受賞しましたね。東京工業大学 大隅良典栄誉教授、ノーベル医学生理学賞、受賞おめでとうございます。もちろん国別対抗ではありませんし、ノーベルの遺言でも国籍は考慮しないとのことのようなのですが、やはり日本人の受賞はうれしいです。また、受賞者数が21世紀以降、自然科学部門で米国に続いて世界第2位ということも誇らしいです。今後、研究を続けていかれる方や、これから研究の道に進もうとしている方々にとっても力づけられることでしょう。(漠)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 名原 克典

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp